

半分大人になるということ

氏名：新田 弥奈子

学校名：福島県郡山市立芳山小学校

担当教科：全教科

実践教科：総合的な学習の時間・道徳

時間数：5 時間

対象学年：4 学年

人数：26 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：

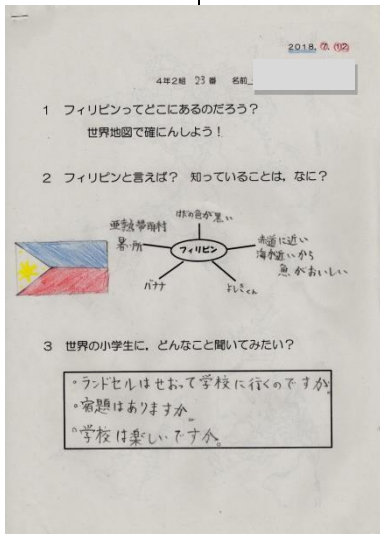
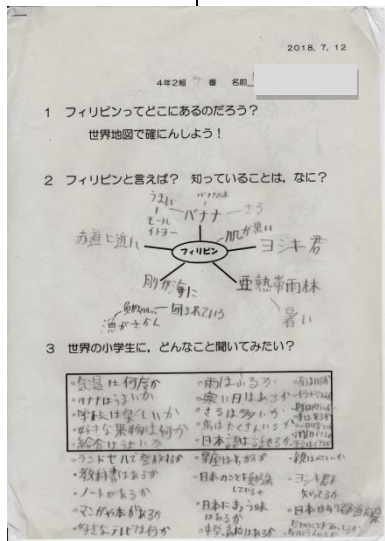
- 他国の文化や子どもたちの生活の様子を知ることによって、日本や自分自身のよさに気付く。
- 二分の一人を迎えるにあたって、自分自身の学校・家庭生活を振り返ったり、自分が他の人を支える人へと立場が変わっていったりすることに気付く。

【2】 単元の 評価規準例	(ア) 関心・意欲・態度	外国の文化や人々の生活に関心を持ち、進んで話し合いをしようとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	開発途上国に住む人々と自分の生活を比べて、自分を客観的に見つめ、これからの生活態度について考えることができる。
	(ウ) 技能	自分の考えや思いを発表したり、自分の言葉で表現したりすることができる。
	(エ) 知識・理解	開発途上国で生活する子どもたちと自分の生活を比べて考えたり、他国で起きていることを地球市民の一員として理解したりすることができる。
【3】 単元設定の理由 (児童/生徒観、 教材観、指導観)	(1) 児童の実態 外国については、英語指導助手と簡単な英会話のゲームに楽しく参加している。また、指導助手がイギリス出身のため、その先生からイギリスの小学生の様子やクリスマスなどの伝統行事について話をしてもらっている程度である。英語表現科の授業を通して外国語にふれる機会はあるが、そこに住む人々の生活や世界の国々に対する関心は低い。	
	(2) 対象との関わり 研修前の総合的な学習の時間では、フィリピンのことについて知っていることや、イメージなどを共有したり、フィリピンの小学生に渡すおみやげを折り紙で作ったりする。研修後は、授業者が見てきたものや食べてきた物などを、スライドを通して紹介したり、フィリピンで人気のデザートを実際に作って食べたりして、フィリピンへの親近感をもたせる。 道徳科の時間では、路上に住む子どもたちにスポットを当て、自分たちは当たり前のように学校に通っているが、世界を見ると学校に通って勉強をしたくてもできない子どもたちがいるということに気付かせたい。	

(3) 学びの構想

フィリピンを通して、外国の街の様子や、そこに住む人々の生活や文化の違いなどについて興味をもつきっかけとしたい。さらに、開発途上国に住む子どもの生活から、学校に通えたり、家があっておうちの人が食事を用意してくれたりしている当たり前のことが、実はとても恵まれているということだということを実感するきっかけとしたい。そこから、自分の今の家庭生活や学校生活を振り返り、自己を客観的に見つめるきっかけとする。半分大人になるということは、自分のことばかりでなく、他の人のことも考えた言動をとるなど、一人一人のよりよい生き方に結び付けていきたい。

【4】展開計画（全 5 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 総合 事前	フィリピンって知ってる？	○フィリピンってどこにあるのだろう？ 世界地図で予想→確認する。 ○フィリピンと言えば？知っていることはなに？イメージマップをつくる。 ○教師が実際にフィリピンに行くことを知らせることで、興味・関心をもつ。	・地図帳 ・ワークシート
			
			

2 総合 事前	フィリピンの小学生と交流しよう	○フィリピンに住む、自分たちと同じ小学生に聞いてみたい質問を考える。 ○フィリピンの小学生に、日本の文化を伝えられるようなおみやげを準備する。	・ワークシート ・折り紙
3 総合 事後	フィリピンで人気の〈ハロハロ〉を作って食べよう！	○ハロハロについて、その材料や作り方、時代の背景などを調べることを通して、外国の食文化の知恵や価値を知る。	・タブレット ・ハロハロの材料



メダルを作り、その真ん中に好きな漢字一文字と自分の名前を英語で記入。その他にも、折り紙で鶴や紙風船など様々なものを作った。



ぼくは、牛乳寒天とナタデココを入れてみたよ！

私は、ソーダ味のかき氷を入れて、最後にスプレーでカラフルに飾り付けてみたよ！



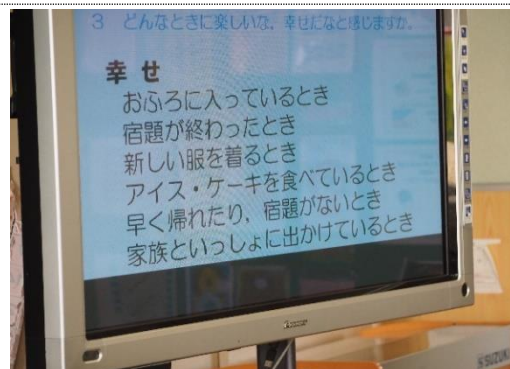
4 総合 事後	実際のフィリピンって、どんな国？	○教師が実際に行って見てきたことなどについて紹介することで、外国と日本の生活の様子の違いに気付く。 ○自分達が作った折り紙のおみやげが届いた写真を見たり、質問への回答を知ったりすることで、より身近にフィリピンを感じ、フィリピンの小学生と自分達の学校生活との違いに気付く。 ※夏休み中に、フィリピンクイズを掲載した残暑見舞いを学級の子も達に出し、興味・関心を高めておく。 	・パワーポイント資料 ・【資料1 参照】
5 道徳 本時 朝の 時間	路上で生活する子どもたちの生活や思いから、『半分大人になる』ということを考えよう。 開発途上国に対する関心をもとう。	○フォトランゲージから、世界には十分に学校に通えない子どももいることを知る。 ○路上で生活する子どもについて知り、地球市民として自分の考えをもつ。 ○自分が「支えられる人」から「支える人」へと立場が変わっていくことに気付き、今の学校生活や家庭生活を振り返り、自分を見つめ直す。 ○開発途上国に関する本の読み聞かせや、JICA 小冊子を使って、世界にはいろいろな境遇の子どもたちがいることを知る。 ○開発途上国に対する関心をもつ。	・アンケート結果 ・写真2枚 ・ワークシート ・パワーポイント資料 ・本 ・JICA「学校に行きたい」小冊子 ・イーゼル (本の展示用)

【5】 本時の展開			
過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10 分)	1 事前に行った自分達のアンケート結果を知る。 ①放課後（学校の授業が終わってから）どんなことをして過ごしていますか。 ・友達と遊んでいる。 ②家でのお手伝いは、どんなことをしていますか。 ・お風呂洗いをときどきかな。 ③どんなときに楽しいな、幸せだなと感じますか。 ・家族と出かけたとき。 ④半分大人になるってどういうこと。 ・周りに迷惑をかけないこと。	・仲間のアンケートの回答が共有できるように、電子黒板で映す。 ・自己を見つめる動機付けとして、事前アンケートを行い、自分たちの生活に関心をもたせる。 ・事前アンケートは、ジョン・マーク君との生活の違いとも関連付けさせたい。	・アンケート結果がわかるパワーポイント資料
展開 (25 分)	2 フォトランゲージを行う。 (1) 路上で生活するジョン・マーク君の笑顔の写真を見て、そこから読み取れることを話し合う。 ・男の子だよ。 ・同じ4年生くらいかな。 (2) 2枚目として、路上で実際に生活していることがわかる写真を見せ、そこから読み取れることを話し合う。	・自由な発言も認めると同時に、写真を見る観点を教師側からも出す。 ・子ども達から出た言葉が共有できるように板書していく。 ・路上で実際に生活している様子の写真を見せる。様々な年齢と思われる人の生活が見える細かい写真なので、一人一人がじっくり見て、多様な考えを引き出せるように、一人に1枚配布する。 ・どうして写真のような生活をしているのか、貧困の問題があることにも気付かせたい。	・ドロップインセンター（研修訪問先である NPO 法人アイキャン事業地）に通うジョン・マーク君の笑顔の写真 ・研修訪問先である NPO 法人アイキャン提供の路上で生活している様子がわかる写真

	(3) 2枚の写真について教師からの説明を聞き、写真の子ども達がどこで生活しているのかを知る。 ・13歳 7人家族 路上で生活している。 ・夕方から仕事。1日100ペソ(200円)を稼ぐ。将来は軍隊に入りたい。	・ジョン・マーク君の家族構成や、学校が終わってから、夜仕事をしていることなどを教師から話す。	
	3 ジョン・マーク君は、幸せなのか考える。 ・子どもなのに、自分でお金を稼いでいるから幸せじゃないと思う。 ・笑っているから幸せだと思う。 ・道路で生活しているから幸せじゃないと思う。	・「幸せ」「幸せではない」を考えさせ、ネームプレートを黒板に貼る。そう考えた理由について全体で話し合う。 ・それぞれの考えを出させた後、マーク君の写真に、吹き出しで、友達と遊ぶ鬼ごっこが楽しいことと、将来の夢を入れたパワーポイントを見せ、路上で生活する子ども達も、自分達と同じように友達と遊ぶことが楽しかったり、将来の夢をもっていたりして、本人は幸せに思っているというところに気付くようにする。	・ネームプレート ・一番始めに見せたジョン・マーク君の写真に、楽しい遊びや夢について吹き出しをつけたもの
まとめ (10分)	4 半分大人になるということ、本時で考えたこと、思ったことなどをワークシートに記入する。	・二分の一成人に絡めて、半分大人になるということについて、□の中に言葉を入れるワークシートの準備。本時の授業については、自由記述とする。	・ワークシート

【授業実践の様子】

1 事前に行った自分たちのアンケート結果を知る。



2 (1) フォトランゲージ (1枚目)

ドロップインセンターに通う、ジョン・マーク君の笑顔の写真を見ながら、マーク君について、自由に発言。

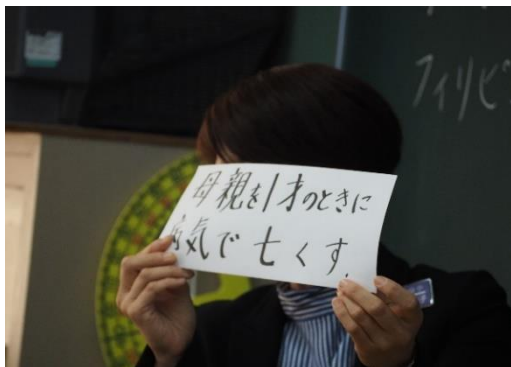


(2) フォトランゲージ (2枚目)

路上で生活する人々の様子がわかる写真 (認定 NPO 法人アイキャン提供写真)。一人ずつにも配付。はじめは、じっくりと一人で見ていた子どもたち。だんだんと仲間に自分が気が付いたことを話し始めた。



(3) 2枚の写真について教師からの説明を聞く。先ほどまでとは、表情が一変する。



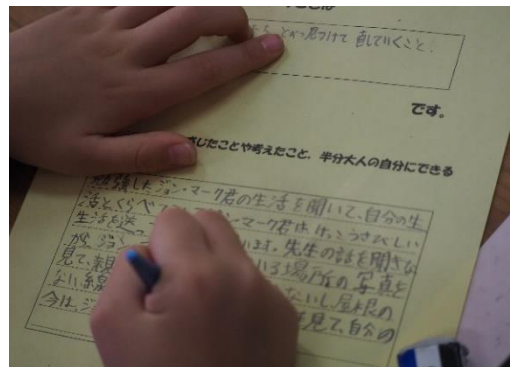
3 ジョン・マーク君は、幸せなのか考える。黒板に自分のネームプレートを一人一人貼っていく。



ジョン・マーク君が楽しいと思っていることや、将来の夢を紹介。ジョン・マーク君本人は幸せに思っていることに気付く。



4 半分大人になるということ、本時で考えたことなどをワークシートに記入。



【6】 本時の評価

本時に入る前に、フィリピンの光の部分（おもに食べ物・乗り物・街の都会的な様子など）や、フィリピンでポピュラーなデザートのハロハロを実際に作って食べるなど、楽しいことを総合的な学習の時間に行っていたので、フォトランゲージで使用した、ドロップインセンターに通うジョン・マーク君の背景を想像している段階では、子どもたちの発言も表情も明るかった。次に2枚目として、路上で生活している人々の様子がわかる写真を提示した際にも、気付いたことをどんどん発言していた。しかし、1枚目に提示したジョン・マーク君が路上で生活していることを知ると、表情は一変した。さらに、生い立ちや実際の年齢、現在の生活の様子などの情報を与えると、さらに陰しい表情へと変化していくのが見て取れた。今まで光の部分でしかフィリピンを見ていなかったのも、そのギャップに驚いたのもあるだろう。

展開の最後に、路上で生活するジョン・マーク君は『幸せなのか』という、本時における主発問を行い一人一人に考えさせた。その際、黒板には教師がジョン・マーク君に関するネガティブな情報が板書されていたこと、また、ネームプレート黒板に一人一人貼っていったことが、教師がよかれと思って取った可視化の手立てが、子どもたちの自由な思考を妨げる要因となってしまう、「本当は、こう思っていたけど…」と自分の思いがあった子どもも、他の子に考えが流されてしまった。

まとめて記入した『半分大人になるということは』という質問は、本時の前に行った事前アンケートでも同じ質問をした。本時の授業後のほうが、より深く考えられた記述が書かれていて、子どもたちの変容が見られ教師側にとってもよかった。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

半分大人になる。みんなに聞きたいこと

4年2組 6組

1. 勉強は（学校の授業が終わってから）どんなことをして過ごしていますか。

勉強 スポーツ

2. 家でのお手伝いは、どんなことをしていますか。

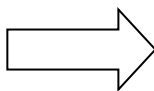
カーテンをしめる。

3. どんなことに楽しんでいます。学校で話の通りですか。

アイスを食べているとき。

4. スパイス半分大人になるとどういふことだと思えますか。

成長することだと思う。



ワークシート

～半分大人になるということ～

4年2組 6組

半分 大人になるということは

生まれたときよりも成長する

です。

☆ 今日の授業を通して感じたことや考えたこと、半分大人の自分にできることなどを記入してください。

ジョン・マーク君は路上で生活しているけれど、ぼくはふつうの家に住んでいるから、ジョン・マーク君は辛いなと思いました。は母さんや父さんやお父さんには1ヶ月に1回しか会えないのに、笑顔で迎えるのがすごいなと思いました。半分大人の自分にできることは人にやさしくすること。

※ 半分大人になることに対して自分自身の成長のみだったのが、他人に対して意識が変化した。
「成長することだと思う」 → 「人にやさしくすること」（男子）

半分大人になる。みんなに聞きたいこと

4年2組 9番

1 読書検定（「夢の国」がテーマで）どんなことをして過ごして？

陸上競技部、児童クラブ、家に帰るとお母さんと一緒に遊ぶ。

2 夢の中の自分とは、どんなことをしていますか。

よく泳ぐ、荷物運ぶ。

3 どんなことに楽しんでいる。夢でなりたい職業。

ゲーム、お絵かき、好きなTVを見ること。

4 スーパー半分大人になるってどういうことかと思いませんか。

後輩で大人になるということかと思う。

～半分大人にならないうこと～

4年2学期 夏

半分 大人にならないうことは

自分の考えをしっかりと見つけて 色づけること

です。

※ 今回の授業を通して感じたことや考えたこと、半分大人の自分にできることなどを書き進みましょう。

勉強はジョー・マク君の生活を聞いて自分の生活と比べてみて、ジョー・マク君はどのような生活を送っているのかと思います。先生の話を聞きながら、ジョー・マク君のほんまにいい生活の写真を見て、親がいないから家が買えない、母と娘のいざこざが苦しいから住んでいるのを見て、自分の今はジョー・マク君より幸せな人だと思っています。ジョー・マク君は、いよいよ、その中でよく生きてるかと、思います。

「あと半分で大人になること」→「自分のダメなところをちゃんと見つけて、良くしていくこと」
「ジョン・マーク君の生活と比べて、自分の今の生活が幸せなんだと思った」（男子）

半分大人になる。みんなに聞きたいこと

4年2組 19 番

1 友達(学校の授業が終わってから)どんなことをして遊んでいますか。

合奏 終わったら宿題をする。

2 夢の中の出来事。どんなことをしていますか。

かいつまみの話 ・(4/1) ・せんたくものをしう

3 どんなことに興味があります。楽しめたことありますか。

家族 といふ時

4 スピリット半大人になるってどういうことだと感じますか。

・生きているということ

～半分大人になるといこと～

4月2日 15時

半分 大人になるといことは

さびしくても、強くなれると
いうこと

です。

☆ 今日の授業では「感じたことや考えたこと、半分大人の自分にできること」ばかりを書きました。

家族がいても、まっすぐに、仕事をしていて、
彼女だと思えることはすべし、ないと思いま
した。もとお手伝をして、お母さんや
お父さんを楽にしたいです。

「生きているということ」→「さびしくても、強くなれるということ」
「お手伝いをして、お母さんやお父さんを楽にしたいです」(女子)

1. 敬語は（相手の位置がかわってから）どんなことをして添えていますか。
 2. 家でのお手伝いは、どんなことをしていますか。
 3. どんなときに生しいな、幸せだなと感じますか。
 4. 友利川平や友人になってどういふことか聞いてみます。

ワークシート

～半分大人になるということ～

4年2組 佐藤

半分 大人になるということとは

です。

☆ 学習の姿勢を直し、感じたことや考えたこと、半分大人の自分にできることを書くを書きなよ。

これから、お父さんやお母さんや先生や友達やみんなと協力して、
がんばりたい。

「少し背がのびること」→「やることを進んでできるということ」(男子)

半分大人になる、みんなに聞きたいこと

4年2組 21 時 課

1 読書会（歴史の授業が終わってから）どんなことを話していましたか。

宿題として与えられたものを見たいです。

2 席での学習時間、どんなことを話していましたか。

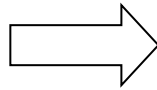
理科学習
エコバックをもつ

3 どんなときで楽しいか、何をしたら楽しかったですか。

休みの時間友達と遊んでいる時、
お風呂に入るとき、
お友達と入るとき。

4 もし、半分大人になってみたいということだとしたら、

もう少し勉強がわかる



～半分大人になるということ～

4年2組 21 時 課

半分 大人になるということは

下の学年の人やこまっている人にやさしくなること
です。

5 今日の授業を通して感じたことや考えたこと、半分大人の自分ができる
ことなどを書きましょう。

外国の方では、ずっとくらしをしていて、
いるけど、今のくらしが幸せだということ
が分かった。

「難しい勉強がわかる」→「下の学年の人やこまっている人にやさしくなるということ」
「今のくらしが幸せだということ」

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- ・フィリピンのポピュラーなデザートハロハロを実際に作って食べたことによって、家でも家族に食べさせるために作った子が多くいた。その際、ハロハロの意味なども、家族に説明していたと保護者から聞くことができた。
- ・廊下にフィリピンの乗り物や食べ物などの写真を掲示していたが、他学年がそれを見ていると、自分が得た知識を用いて説明している姿が見られた。

【途上国・異文化への意識の変容】

（授業前）

- ・他学年に、フィリピンからの転入生がいるので、何となくフィリピンという国の名前は知っていた。イメージとしては、「バナナ」「暑そう」「肌の色が黒い」「日本と同じ島国」など。
- ・英語表現科の授業で英語指導助手から、外国の文化については教えてもらっていたので、日本と違うところがあるという程度の異文化理解。自分から、外国の文化について調べようという意識はなかった。
- ・途上国への興味・関心、もちろん知識もほとんどなかった。

（授業後）

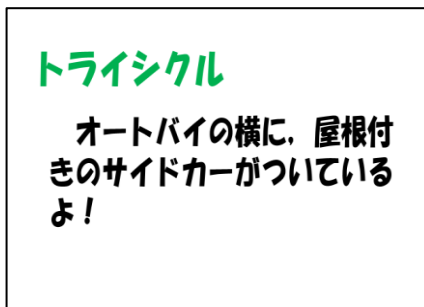
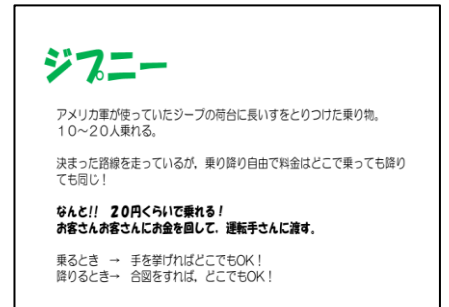
- ・毎日の自主学習で、外国の文化や食べ物のことなどについて調べてくる子どもが増えた。
- ・テレビ等で『フィリピン』というワードを聞くと、その話題を身近な国として捉えるようになった。
- ・フィリピンをきっかけとして、実は学校に行きたくても通えない子どもたちが、世界中にたくさんいるということを知ることができた。
- ・『国旗かるた』（取り札が世界の国々の国旗、読み札にはその国の特徴が書かれている）に、夢中になって遊ぶ姿が見られる。
- ・教室の後ろに、開発途上国に住む子どもたちの様子や、支援に関することについて書かれた本を置いておいたところ、手に取って読んでいる姿がみられるようになった。

【8】自己評価

苦勞した点	本時で、「路上で生活する子どもたちは、幸せかどうか」ということについて考えさせたが、この主発問については、最後の最後まで悩んだ。それは、「幸せの価値は他人が決めることではなく、どんな状況にあっても幸せかどうかを判断するのは本人だから」である。しかし、9、10歳の子どもたちにどういう言葉で考えさせたらいいか、年齢が低ければ低いほど、その伝え方に難しさを感じた。
改善点	本時の道徳の時間に、「幸せか、幸せじゃないか」について考えた。教師が、ジョン・マーク君の背景についてマイナス面のみ伝えたが、それを黒板に箇条書きで貼った。考える際に、マイナスの情報しかなかったので「幸せではない」に考えが流れてしまうのは当然であった。黒板に掲示はせず、教師の言葉だけでもよかった。 また、仲間の考えを共有するためにネームプレートを黒板に貼っていくという活動を行ったが、可視化したことで、かえって自分の考えを全面に出すことができず、仲間の考えにつられてしまい、結果クラス全員が同じ「幸せじゃない」という考えになってしまった。全員がネームプレートを貼り終わった後に、ジョン・マーク君が楽しいと思っていること、将来の夢を紹介した。その後で、もう一度「幸せか、幸せじゃないか」について考え直させてもよかった。さらに、ネームプレートを貼る際も二択ではなく、幸せの度合いのバロメータが、一目でわかるような数直線上に貼らせていくという方法も考えられた。
成果が出た点	全くと言っていいほど、外国ましてや開発途上国についての知識はもとより、関心もなかった子どもたち。それが、フィリピンを通して、自分たちの学校生活と海外の小学生の学校生活の違いや、街の様子、食事の様子などを知り興味・関心をもつようになった。さらに世界に目を向けると、学校に通いたくても通えない子どもがいること、その背景には貧困という問題があることを初めて知ることになった。本単元を通して世界に興味をもち、開発途上国についてわずかではあるが、知識が頭に残ったということは大きな成果と考えられる。また、子どもを通して、保護者の方にも関心をもっていただくことができた。 今回は、開発途上国への支援や、そこで働く日本人のことについてはふれなかったが、ここからがはじまりだと考えて単元を組み立て実践したので、開発途上国について考える、いいきっかけをつくることができた。
備考（授業者による自由記述）	【研修前】開発途上国に対する私自身の知識がほとんどない状態での参加。とにかくいろいろなことを「自分の目で見て、聞いて、感じてこよう」と思っていた。 【研修中】見るもの聴くもの全てが新鮮かつ刺激的で、これらの中から何を使って、何を中心に子どもたちに伝えていけばいいのだろうと、研修後の授業実践に向けての不安が出てきた。 【研修後、授業実践を終えて】子どもたちは、教師からの情報一つ一つに興味、関心をもち、時には自分事としても考えていた。私が吸収してきたことを、子どもたちにダイレクトに届けることができた。決して単発で終わるのではなく、これから担任する子どもたちにも授業を展開していきたいと強く感じている。教師海外研修で得たもの、出会った人とのつながりが私の教師人生の大きな財産になった。

添付資料：使用したパワーポイント資料の一部

【資料1】 事後 総合的な学習の時間



【資料2】 本時 道徳科

1 放課後（学校の授業が終わってから）どんなことをしていますか。

運動部・合奏部の練習 ゲーム 宿題

ピアノ テレビを観ている 買い物

あみもの じゅくに行っている

2 家でのお手伝いは、どんなことをしていますか。

料理 皿洗い テーブルふき
くつを洗う 弟の面倒をみる ペットの
洗たく物をたたむ・しまう 皿洗い
そうじ ごみ捨て 荷物を持つ
炊飯器のスイッチを入れる

していない

3 どんなときに楽しいな、幸せだなと感じますか。

楽しい

ゲーム まんが ピアノ
友達と遊んでいるとき
遊びたいときに遊べるとき
家族といっしょに出かけているとき

3 どんなときに楽しいな、幸せだなと感じますか。

幸せ

お風呂に入っているとき
宿題が終わったとき
新しい服を着るとき
アイス・ケーキを食べているとき
早く帰れたり、宿題がないとき
家族といっしょに出かけているとき

4 半分大人になってどうのこと？

半分成長したということ 中途半ば
勉強ができるようになること
いろんなことにしっかり行動すること
計算ができるようになること
昔できなかったことができるようになること
もっとお手伝いしたり、勉強したりすること
あと半分で大人になること
人のことを考えられるようになること



参考資料：

「2017 年度 教師海外研修報告書」

「学校に行きたい！」国際協力とわたしたち（JICA）

「学校に行けない世界の子どもたち」（JICA）

「すごいね！みんなの通学路」ローズマリー・マカーニ著 （西村書店）

「ランドセルは海を越えて」内堀タケシ著（ポプラ社）

「ぼくたちは なぜ、学校に行くのか。」石井光太著（ポプラ社）